

# 官民連携基盤整備推進調査費について

---

国土交通省 国土政策局  
広域地方政策課 調整室  
令和6年2月

# 調査費の概要

地域活性化を目指し、設備投資などの民間の活動と一体的に計画される自治体のインフラ整備の事業化について、民間の事業計画に遅れることなく検討が行えるよう、事業化に必要な調査費の一部を自治体に対して機動的に補助する調査費

- 補助対象者は都道府県・市町村、補助率は1 / 2以内
- 事業化に必要な調査・検討と合わせて、PPP/PFI導入に必要な調査も実施可能

## 主たる支援内容

### ○ インフラ整備の事業化に必要な調査

- ・ 基礎データ収集
- ・ 需要予測
- ・ 概略設計
- ・ 整備効果検討 等

+

## 主たる支援内容に併せて実施可能

### ○ PPP/PFI導入可能性検討

- ・ PPP/PFI手法の選定
- ・ 官民の役割分担
- ・ VFMの算定 等



## 完成

官民連携の相乗効果  
による地域活性化

- ・ インフラの供用
- ・ 民間による事業活動の実施

## 令和5年度 実績

区 分	募集期間	配分時期
第1回	1月24日～2月17日	5月上旬
第2回	4月17日～6月9日	8月上旬

## 令和6年度 予定 ※応募状況により、複数回募集を行うことがあります。

区 分	募集期間	配分時期
第1回	1月24日～2月7日	4月下旬以降

# 活用事例イメージ

## 2. 調査費の活用事例イメージ(道路関係)

### ① 地域活性化の拠点となる「道の駅」整備の検討

#### 事例①：地域活性化の拠点となる「道の駅」整備の検討

高速道路の開通に向け、既存の民間商業施設のリニューアル等にあわせて、地域振興施設・駐車場・公園等を整備することにより、広域周遊観光拠点となる道の駅を設置



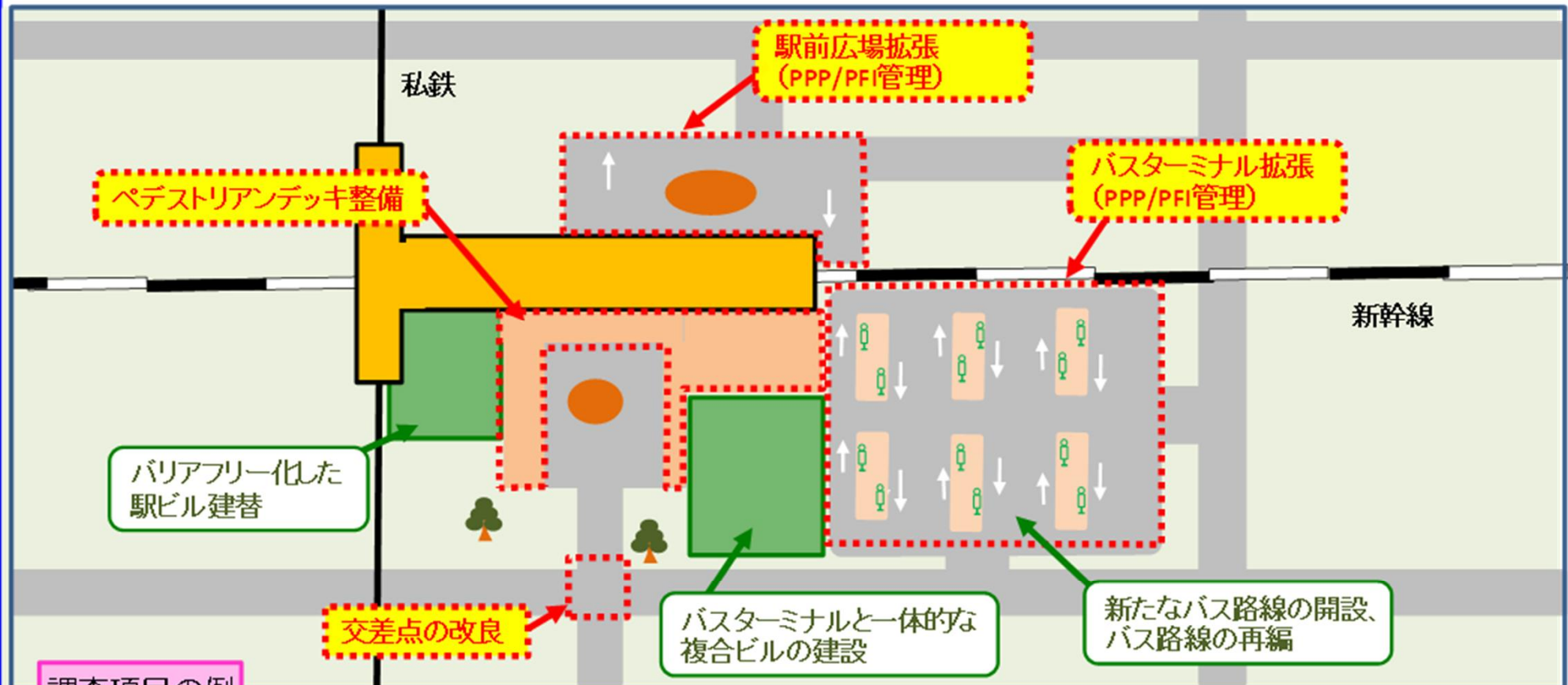
#### 調査項目の例

- ① 地域振興施設・駐車場・公園・アクセス道路等の整備に係る需要調査、配置検討、概略設計
- ② 地域振興施設の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討 等

### ② 交通結節機能強化のための駅周辺整備の検討

#### 事例②：交通結節機能強化のための駅周辺整備の検討

交通結節点としての利便性向上を目指すため、民間事業者による駅ビル建替等とあわせて、乗り換えの動線強化や中・長距離バス停留所の集約等を図る駅周辺整備を実施



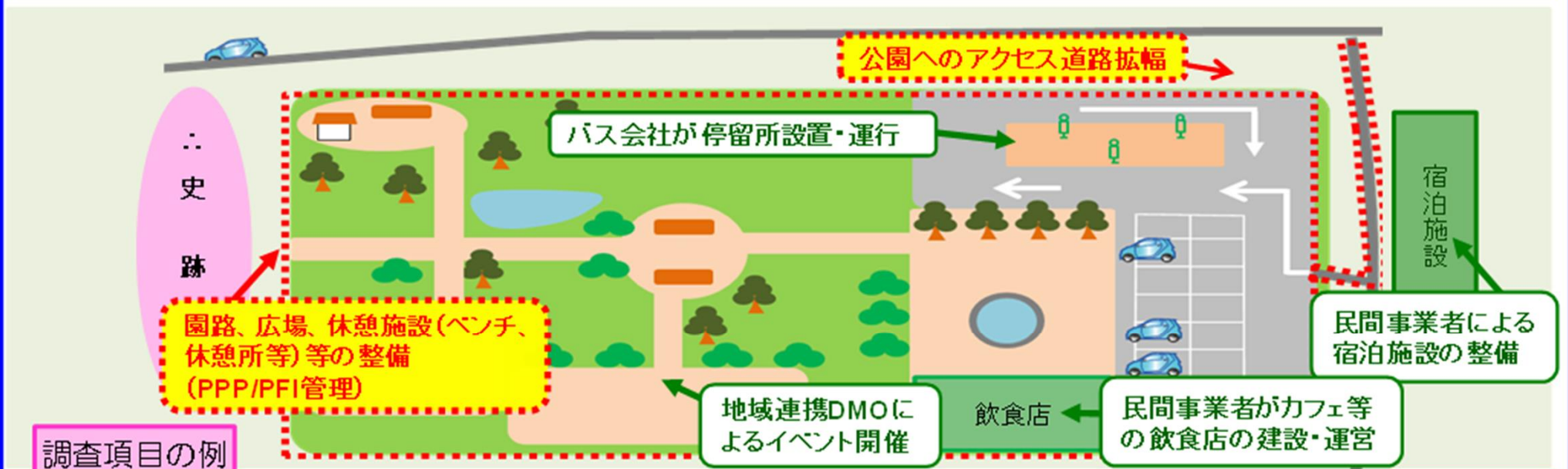
#### 調査項目の例

- ① 広域交流拠点形成に向けた駅周辺の整備に係る需要予測、概略設計、整備効果検討
- ② 広域交流拠点形成に向けた駅周辺の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討 等

### ③ 観光振興のための公園整備の検討

#### 事例③：観光振興のための公園整備の検討

民間事業者による宿泊施設整備とあわせて、市内の史跡と隣接する公園を広域周遊観光拠点として地域資源を活かして整備



調査項目の例

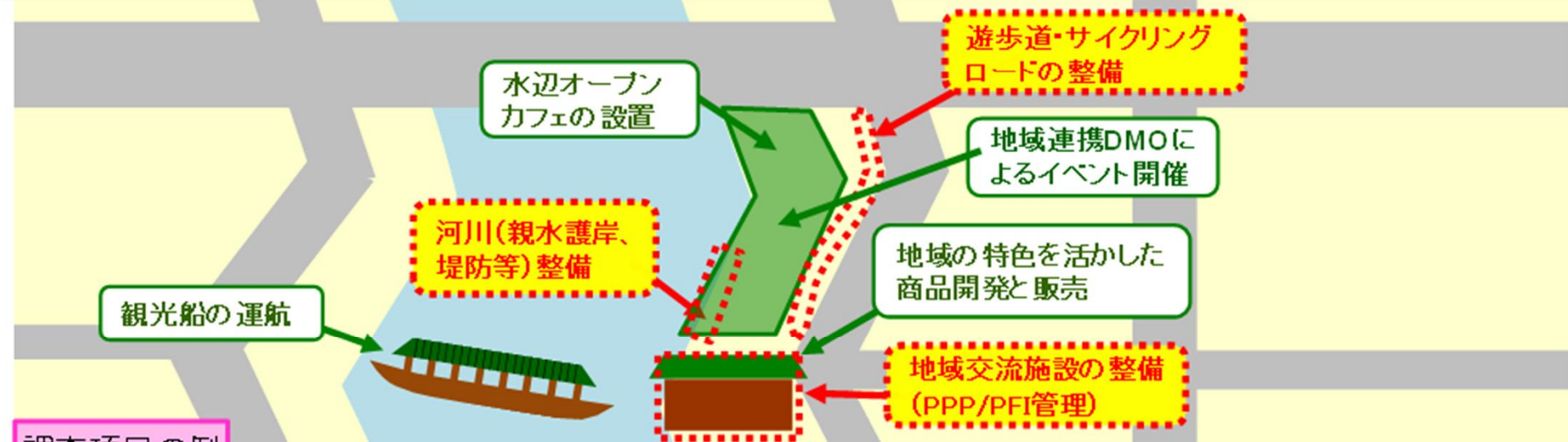
- ① 公園施設の再整備及びアクセス道路の拡幅等に係る需要調査、基本計画策定、概略設計
- ② 公園施設の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討 等



### ④ 河川空間を生かしたかわまちづくりの検討

#### 事例④：河川空間を生かしたかわまちづくりの検討

民間事業者による水辺オープンカフェやイベント開催等とあわせて、親水護岸や遊歩道等を整備しかわまちづくりを実現



#### 調査項目の例

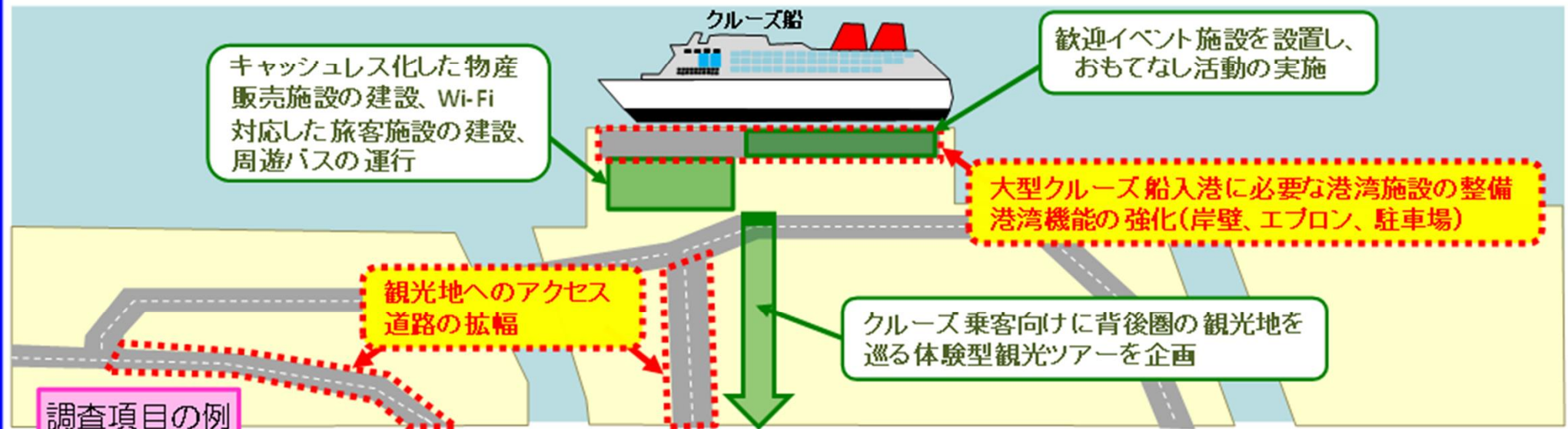
- ① 河川（親水護岸、堤防等）、地域交流施設・駐車場、道路等の整備に係る概略設計
- ② 地域交流施設・駐車場の整備等に係るPPP/PFI導入可能性検討 等

## 2. 調査費の活用事例イメージ(港湾関係)

### ⑤ 大型クルーズ船受入のための港湾施設整備の検討

#### 事例⑤：大型クルーズ船受入のための港湾施設整備の検討

大型クルーズ船の寄港に向けた民間事業者による新規観光ツアーの企画や賑わい施設の整備とあわせて、広域周遊観光を促進するためのゲートウェイとなる港湾整備が必要



① 港湾施設整備に係る需要調査、大型クルーズ船寄港に必要な港湾機能の検討

② ①の調査結果に基づく岸壁、エプロン、駐車場、アクセス道路の概略設計

等

## ○本調査費のHPをご活用ください。

<https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kanminrenkei.html>

(掲載情報)

- ・1. 募集情報
- ・2. 各種様式、要綱・手引き・Q&A等
- ・3. 調査事例・調査成果報告書(年度別、分野別)

※採択時の提出様式および調査実施後の提出様式等

- ・4. 調査成果報告書(年度別)

※調査実施後の事業化の状況のポンチ絵

(問い合わせ先)

国土交通省 国土政策局 広域地方政策課 調整室

(e-mail) [hqt-chouseisitu@gxb.mlit.go.jp](mailto:hqt-chouseisitu@gxb.mlit.go.jp) (tel) 03-5253-8360

# ご静聴ありがとうございました。

# 【参考】 活用事例集

# 2. 調査費の活用事例(調査成果)

## 道路関係(静岡市の新たな道の駅整備)

【要領様式5】調査成果報告書の概要

【令和元年度】  
【事業費：20,000千円 国費：10,000千円】 【実施主体名：静岡市】

### 蒲原地区における新たな道の駅整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

#### 1. 調査の目的・必要性

静岡市東側のゲートウェイとなる蒲原地区において、増加する観光客、サイクリスト等を取り込むことによる交流拡大や地域活性化を図るため、民間事業者による観光総合窓口の運営、サイクルツーリズムの推進、地域内バス交通の運行等と合わせ、新たな道の駅整備に係る駐車場、休憩施設、情報提供施設等の需要予測や概略設計、整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討等を行う。

#### 2. 調査内容

- 道の駅に導入する機能及び具体施設の検討  
地域周辺の課題や地域資源などを整理したうえで、道の駅に導入する機能及び具体施設について検討を行う。
- 施設の需要予測及び施設規模の検討  
検討済の利用計画台数などを基に、施設利用の需要予測を行う。また、これを基に施設規模の検討を行う。
- 駐車場、休憩施設、情報提供施設、地域振興施設等の配置の概略検討  
駐車場、休憩施設、情報提供施設、地域振興施設等の配置の概略検討を行い、レイアウト図を作成する。
- 道の駅の整備及び管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討  
複数の民間事業者に対して意向調査を行ったうえで、民間活動と一体的に整備する効果を整理する。

#### 3. 調査成果

##### ①道の駅に導入する機能及び具体施設の検討

地域周辺の課題や資源を整理した結果、蒲原地区における道の駅の役割は、

- 静岡市及び中部5市2町のゲートウェイ（周遊観光の促進・円滑化）
- 東海道二峠六宿を活用した交流拡大

であると設定し、以下のとおり導入機能及び具体施設を選定した。これらは、今後、基本計画等を検討する際の基礎資料とする。

導入機能	具体施設(案)	
休憩機能	駐車場、トイレ	
情報発信機能	道路情報案内、観光コンシェルジュ	
地域連携機能	周遊交通拠点	レンタサイクル/シェアサイクル、バイクピット、バス停車帯/ロータリー
	地域活性化	市民活動交流スペース、歴史資料展示スペース、アクティビティデスク、体験・加工施設、移住・定住相談窓口、イベント広場、展望ラウンジ
	子育て	ベビーコーナー
広域防災機能	防災ヘリポート、非常用電源設備	
地域防災機能	防災倉庫	
飲食機能	カフェ・テイクアウト、レストラン	
物販機能	土産・地場産品販売	

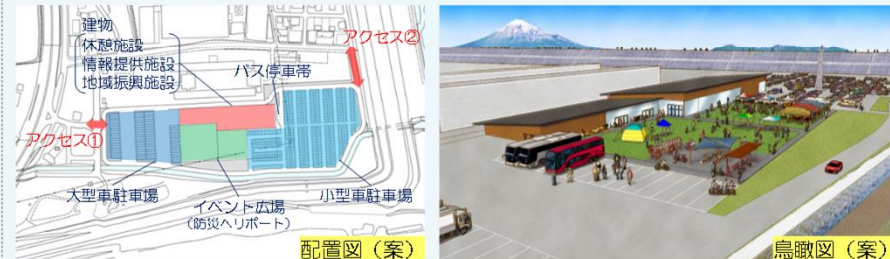
##### ②施設の需要予測及び施設規模の検討

国道1号の交通量や立寄率、回転率などから、駐車場規模を試算した。また、各種設計要領や全国事例を参考に、その他施設の規模を試算した。その結果、当初想定していたよりも大きな施設面積が必要となったため、事業用地を西側に拡大して配置を検討した。

大型車台数	112台	全体施設規模
小型車台数	441台	約35,000㎡

##### ③駐車場、休憩施設、情報提供施設、地域振興施設等の配置の概略検討

試算した施設規模等を基に、配置図(案)及び鳥瞰図(案)を作成した。



##### ④道の駅の整備及び管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

民間企業20社に対し、個別ヒアリングを実施した。ヒアリング結果を参考にVFMの簡易算定等を行った結果、現時点で本事業に導入可能なPPP/PFI手法は、PFI(BTO方式)、DBO(DB+O)方式、指定管理者制度の3手法となった。ヒアリング結果は以下のとおり。



#### 4. 基盤整備の見込み・今後の課題

##### 【基盤整備の見込み】

PPP/PFIによる施設整備及び運営が有効である。引続き、以下の課題を整理する。

##### 【今後の課題】

- 集客の目玉となる収益事業の明確化
- 収益事業のテストマーケティング
- 民間企業が参入しやすい事業条件の設定
- 近隣道の駅との差別化、役割分担

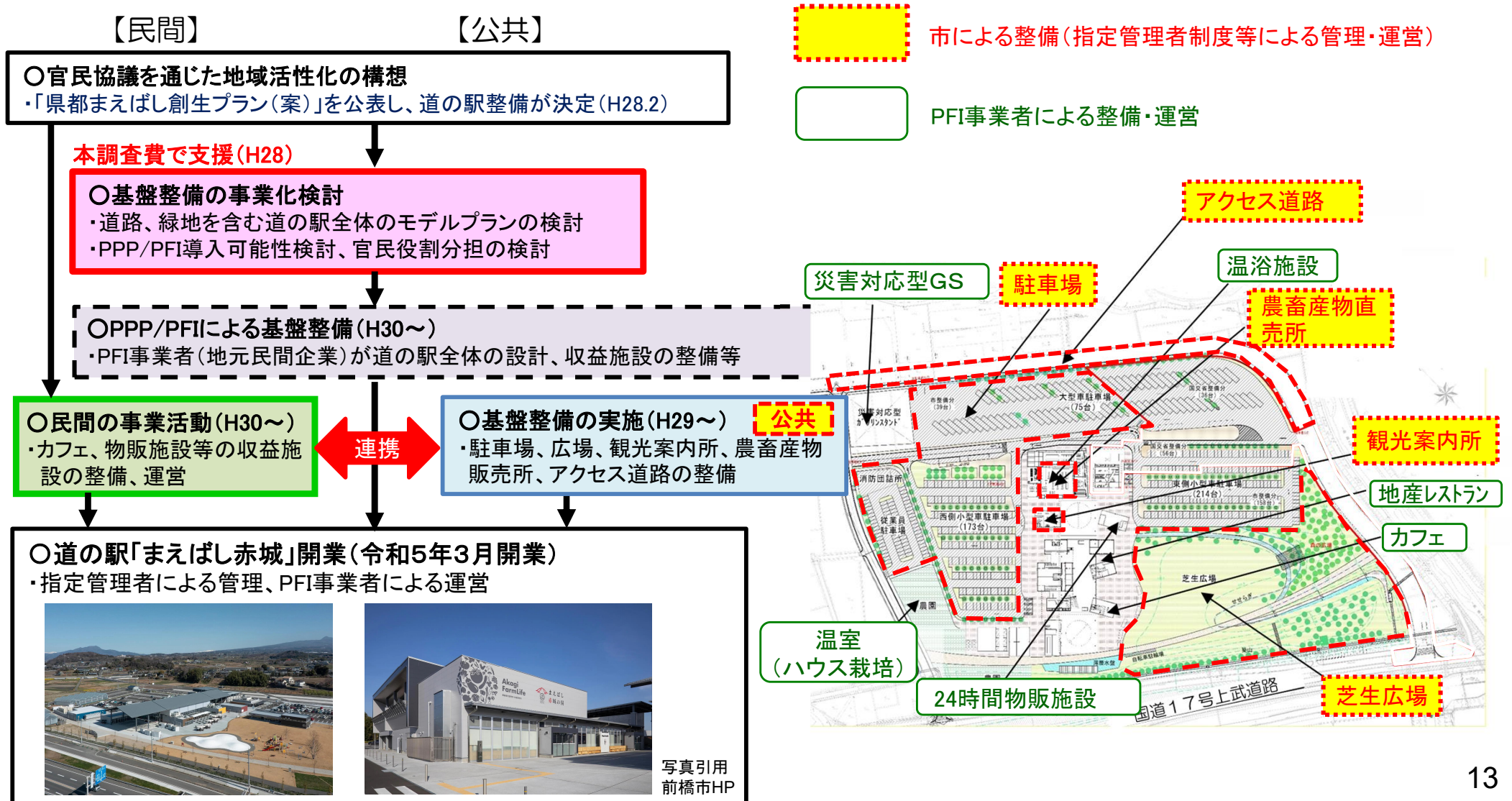
##### 【今後の予定】

調査検討・計画策定：令和2~4年度  
事業着手・公募開始：令和6年度  
整備完了・供用開始：令和8年度末

# 2. 調査費の活用事例(活用成果)

## 道路関係(前橋市の新たな道の駅整備)

国道17号上武道路は、平成28年度中の全線開通に向けて整備が進められ、交通渋滞の解消や物流の効率化に加え、地域経済活性化への寄与が期待されていた。  
これを契機に前橋市では、市北部に防災・復旧の中継拠点となる施設がないという問題点を解消するため、市北部の上武道路沿線に防災拠点と地域振興施設を兼ね備えた道の駅の整備を検討していた。



# 2. 調査費の活用事例(調査成果)

## 都市・まちづくり関係(JR新得駅周辺における地域活性化拠点形成)

【要領様式5】調査成果報告書の概要

【令和3年度】  
【事業費：30,800千円 国費：15,400千円】 【実施主体名：新得町】

### JR新得駅周辺における地域活性化拠点形成のための基盤整備検討調査

#### 1. 調査の目的・必要性

新得駅周辺においては、商店街の空き店舗がかなりの割合を占めるとともに、集客の核である二つの大型食料品店うち一店舗は閉店となり、中心市街地としての魅力に欠け、賑わいが失われている状況にある。

このような状況を踏まえ、駅前の再生・活性化に向けて、賑わいや交流の場の創出、新得駅における交通結節点機能の強化を図るため、駅前広場の再整備と合わせて、町民の買い物、交流、憩いの場、観光客への情報発信機能等を有する複合施設の整備に向けて検討を進めており、今後これらの事業の実現に向けて駅前広場や複合施設、駐車場の概略設計等を行うものである。

#### 2. 調査内容

- ①駅前広場概略設計  
施設配置方針の検討、雨水排水計画、付帯工作物計画、基本計画図の作成、概算工事費の算出など
- ②複合施設概略設計  
建築計画、構造の比較検討、ポーリング調査、パースの作成、概略事業費、スケジュール、運営主体、運営方法、施設内に展示する鉄道遺産の具体的な内容等の検討など
- ③駐車場概略設計  
施設配置の検討、雨水排水計画、縦横断測量など

#### 3. 調査成果

##### ①駅前広場概略設計

交通動線、施設配置の検討、雨水排水計画、付帯工作物計画などの検討を行い、交通結節点としてバリアフリー等の機能充実や、安全確保の観点を含め比較検討を行った結果により、概算事業費を算出するとともに、概略平面図を作成した。(図1参照)

##### ②複合施設概略設計

- ・平面配置計画を検討し、概算事業費を算出するとともに、鳥瞰図及びイメージパースを作成した。(図2・図3参照)
- ・本町の地域性である自然をイメージした内装、アウトドア商品取り扱い店舗を設置したほか、各機能の配置計画についても管理運営予定者や各種団体と意見交換の上、1階部分をワンルーム的に扱い町民や観光客が気軽に利用できるように配慮した。
- ・2階の鉄道遺産展示検討については、道内外の先進事例の分析を行い、本町の発展とって鉄道が果たした役割を整理し、地域への誇りや来訪者に対する地域の魅力を伝える手段として資料や物品、ジオラマを①国鉄、②十勝森林鉄道、③北海道拓殖鉄道の3テーマで分類して展示することとした。
- ・キッズスペースについては、空間を使って自由に遊ぶことが出来るようネット遊具を張り、1階と2階に遊ぶスペースを設け、行き来できるようにした。

##### ③駐車場概略設計

- ・駅前広場及び周辺地区における交通や施設の現状を調査し、周辺施設整備との調整、駐車場施設の配置や形状及び必要台数の検討、縦横断測量、雨水排水計画等の検討を実施した。

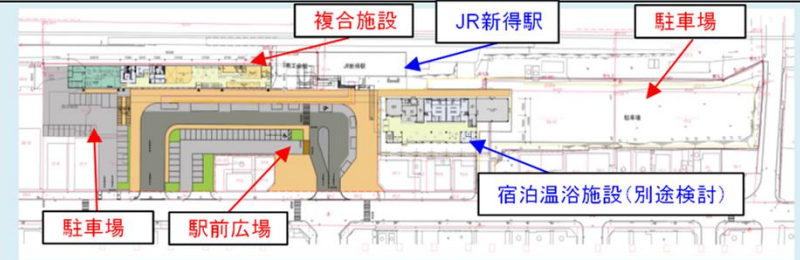


図1 駅前周辺再整備全体平面図



図2 駅前周辺再整備イメージ

図3 複合施設イメージパース

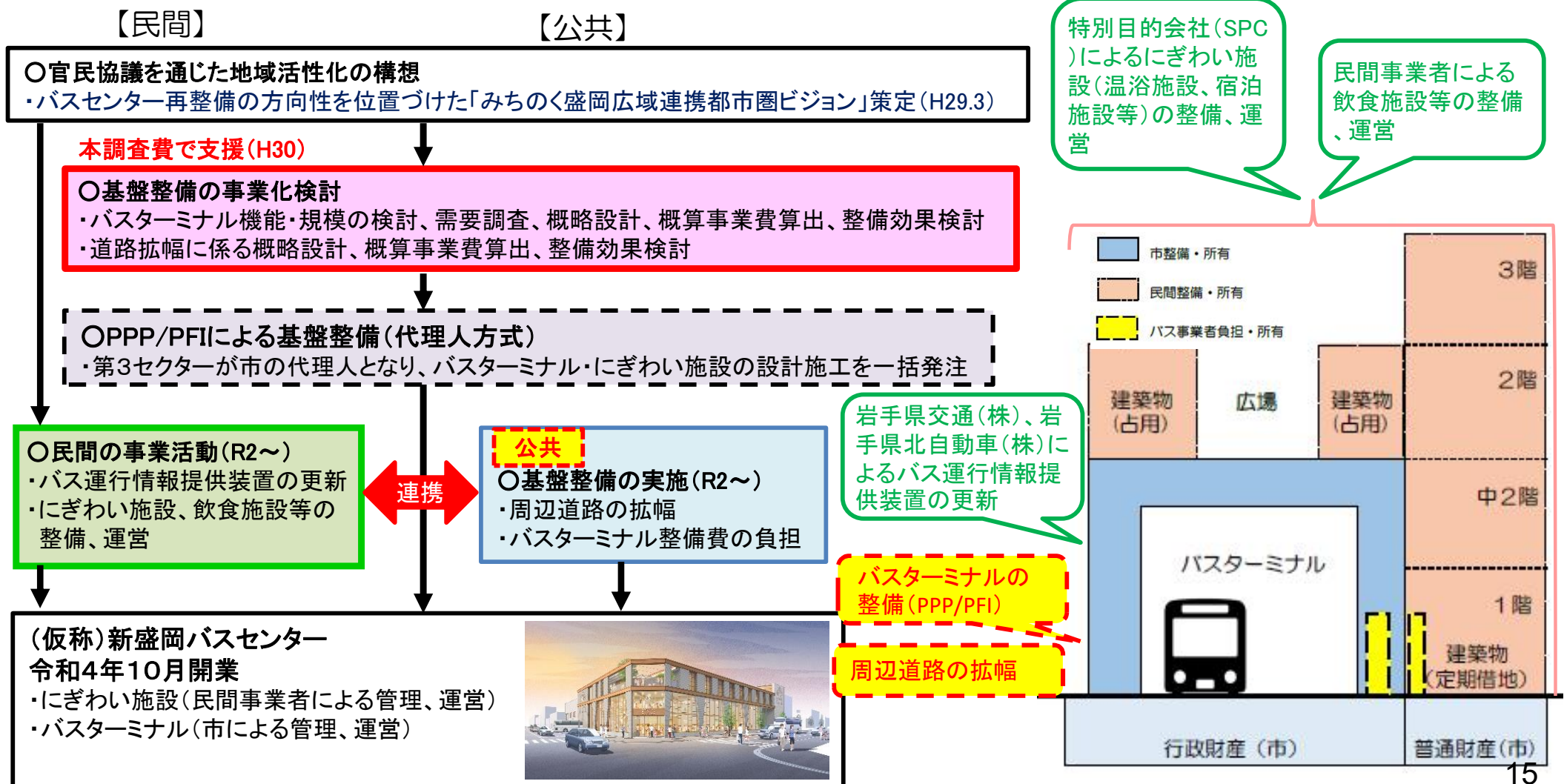
#### 4. 基盤整備の見込み・今後の課題

駅前広場は、本調査での概略設計を基に、令和4年度に実施設計を進め、令和5年度に本工事、令和6年度に供用開始を目指す。  
複合施設については、令和5年度の実施設計に向けて管理運営を担う民間事業者の意向を実施設計に反映させるための協議を行うなど、引き続き計画の内容について相互理解を図りながら令和6年度以降の工事着手を目指す。駐車場は、令和5年度に実施設計を実施し、令和8年度に本工事を予定する。

## 2. 調査費の活用事例(活用成果)

### 都市・まちづくり関係(盛岡市中心市街地におけるバスターミナル整備事業)

民間事業者が運営するバスターミナルであった旧盛岡バスセンターは、盛岡駅の東側約2kmに位置し、中心市街地のバス交通を盛岡駅とともに支えてきたが、施設の老朽化に伴い、平成28年9月に営業を終了した。地域公共交通網を維持し、地域のにぎわいを創出するため、旧バスセンター跡地にバスターミナル(公共施設)と民間収益施設が一体となった新たなバスセンター整備が必要とされていた。





# 2. 調査費の活用事例(調査成果)

## 公園関係(横須賀市長井地区における公園機能拡充)

【要領様式5】 調査成果報告書の概要

【令和元年度】

【事業費：24,400千円 国費：12,200千円】 【実施主体名：横須賀市】

### 長井地区における広域的な観光拠点機能拡充のための基盤整備調査業務委託

#### 1. 調査の目的・必要性

横須賀市では、「横須賀再興プラン」(横須賀市実施計画2018-2021)に基づき、長井地区の交流拠点機能の創出・拡充を目的として、民間事業者による宿泊施設やレストラン等の整備等に合わせ、長井海の手公園に隣接する未利用国有地を取得し、公園の拡張及び既存施設のリノベーションによる再整備を一体的に行うことで、交流拠点としてのポテンシャルを最大化することを検討している。

本調査においては、公園機能の拡充による「集客増」と「消費単価の向上」を最も実現できる本公園の拡充・再整備の基本計画(案)を策定するとともに、本公園へのアクセス道路に係る概略設計等の検討を行う。

#### 2. 調査内容

- ①公園(公園隣接地含む)及びアクセス道路整備に係る測量調査、交通量調査等  
測量調査、地盤調査、交通量調査
- ②公園の基本計画検討(園路、広場、駐車場等の公園施設の再整備に係る概略設計、事業費検討等)及びアクセス道路整備に係る概略設計等  
開発コンセプトの検討、機能計画、施設配置計画、概略設計、事業費検討、実施スケジュールの検討

#### 3. 調査成果

①公園(公園隣接地含む)及びアクセス道路整備に係る測量調査、交通量調査等

(1)公園(公園隣接地含む)整備に係る調査

- 本公園の拡張・再整備の計画検討に必要な基礎データとして、地盤調査により施設設計時の留意点、測量調査により施設配置計画の範囲、交通量調査により時間毎の車種や混雑状況等を把握した。
- 特に、活用ポテンシャルが示されていた崖地部分の測量を実施し、活用可能であることを確認した。

(2)アクセス道路整備に係る調査

- 測量調査によりアクセス道路の概略設計に必要な基礎データを把握し、交通量調査により車種や混雑状況等を把握した。

(表1)機能計画

温浴施設	600m
高質農業体験施設	13,300m
レストラン	1,300m
カフェ	300m
簡易宿泊施設	10室
芝生広場	5,000m
高規格キャンプサイト	10,000m
アスレチック施設	1,500m
駐車場	200台

②公園の基本計画検討(園路、広場、駐車場等の公園施設の再整備に係る概略設計、事業費検討等)及びアクセス道路整備に係る概略設計等

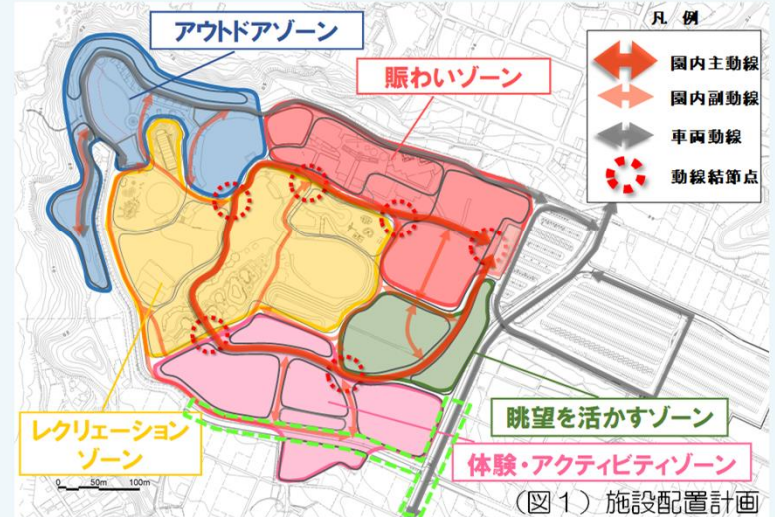
(1)公園の基本計画検討

- 本公園の課題及び本公園に求められる役割を踏まえ、本事業のコンセプトを「大地と海のエンターテイメント・パーク」と設定した。
- 事業主体となることが想定される民間事業者へのマーケットサウンディング(市による別途調査)を踏まえ、本事業の目的を達成可能とする導入機能及び適正規模を把握した上で、機能計画(表1)を検討した。
- 本公園の既存部分と拡張部分の一体性や回遊性を確保し、本公園の最大の資源である良好な景観を最大限に活かすことが可能な施設配置計画(図1)を検討した。

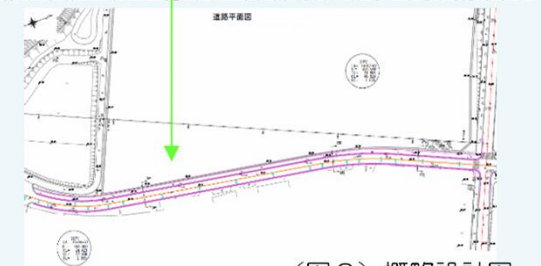
- 施設配置計画を踏まえ、園路、広場、駐車場等の各施設の規格、数量算出等の概略設計を行い、概算事業費の算出、実施スケジュールの検討を行った。

(2)アクセス道路整備に係る概略設計等

- 交通量調査の結果や公園機能の見直しに伴う道路交通量の増加を踏まえ、アクセス道路の拡幅・交差点改良に係る概略設計(図2)、概算事業費の算出、実施スケジュールの検討を行った。



(図1) 施設配置計画



(図2) 概略設計図

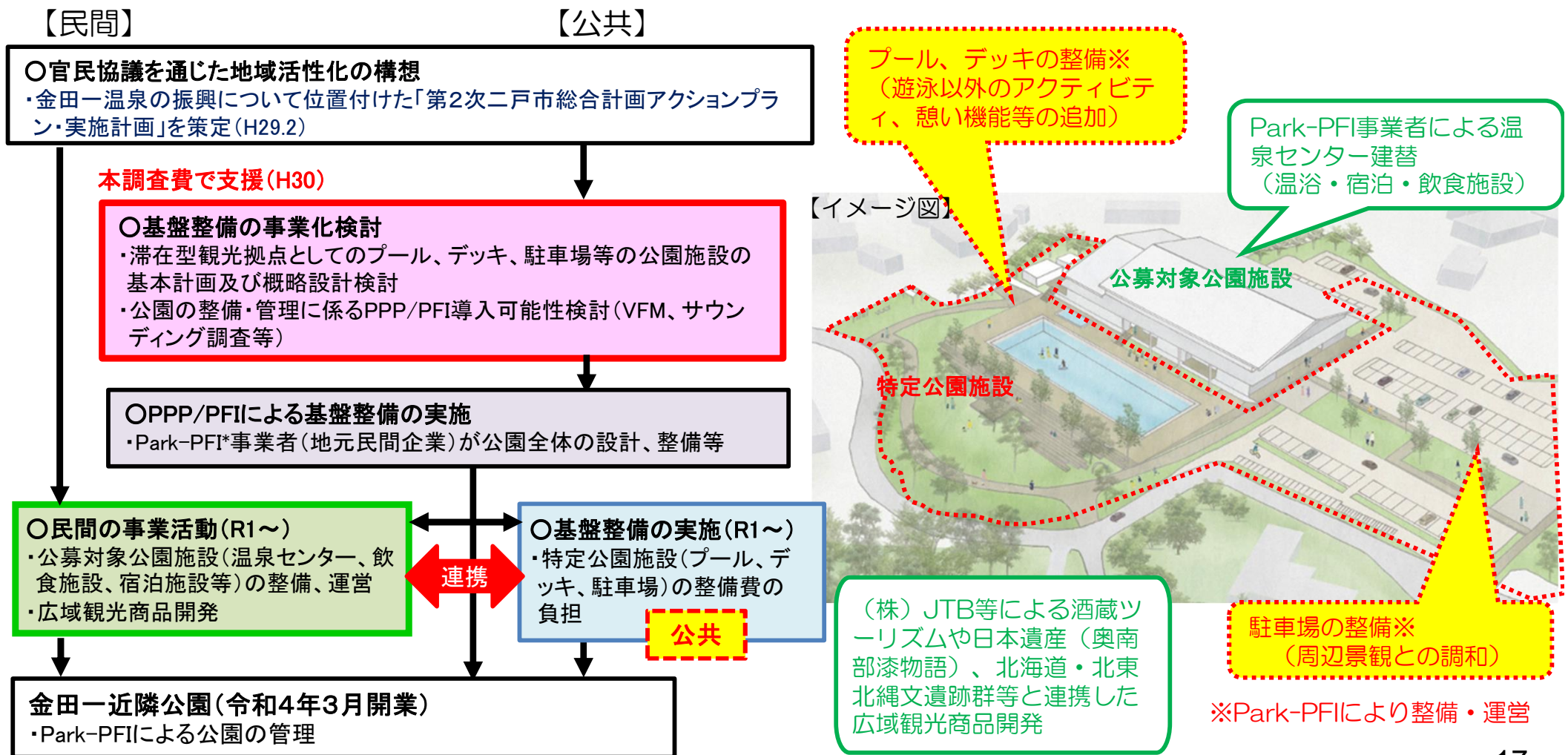
#### 4. 基盤整備の見込み・今後の課題

本調査の結果を踏まえ、令和2年度には基本計画(案)のバブコメを行ったうえで、基本計画として策定する。令和2年7月に本事業を実施する事業者の公募選定手続きを開始、事業者選定後、令和3年度~4年度に整備、令和5年4月のリニューアルオープンにより、三浦半島周遊拠点として半島全域の賑わいに繋げたい。

## 2. 調査費の活用事例(活用成果)

### 公園関係(観光拠点としての金田一近隣公園整備)

金田一温泉のシンボルである金田一近隣公園内の市営の金田一温泉センター（H10開業）及び金田一プール（S29設置）は、老朽化による施設劣化が著しくリニューアルは喫緊の課題となっていた。また、金田一温泉では、最盛期の昭和50年代をピークに旅館数が減少しており、かつてのにぎわいを取り戻すため地域が独自の取組や発信に努めてきた。



\*Park-PFI: 都市公園法に基づく「公募設置管理制度」

# 2. 調査費の活用事例(調査成果)

## 河川関係(多摩市聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり)

【要領様式5】 調査成果報告書の概要

【令和2年度】  
 【事業費：16,000千円 国費：8,000千円】 【実施主体名：多摩市】

### 聖蹟桜ヶ丘かわまちづくりにおける心地良い水辺空間づくりのための基盤整備検討調査

#### 1. 調査の目的・必要性

聖蹟桜ヶ丘北地区において、居心地の良い河川空間を形成するため、民間事業者によるオープンカフェ等の出店やタワーマンションの建設に合わせて、河川敷における多目的広場等の景観デザイン、概略設計及び整備・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討を行う。

#### 2. 調査内容

- ①多目的広場及び店舗設置環境の整備に係る社会実験、調査検討、景観デザイン、概略設計等
- ②多目的広場及び店舗設置環境の整備・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

#### 3. 調査成果

##### ①多目的広場及び店舗設置環境の整備に係る調査検討、景観デザイン、概略設計等

河川敷の多目的広場及び堤防上面のキッチンカー等の出店スペース等について、レイアウト・規模・必要インフラ等を検討し、サイクリングロードの移設や植栽管理、階段設置等の概略設計を行った。

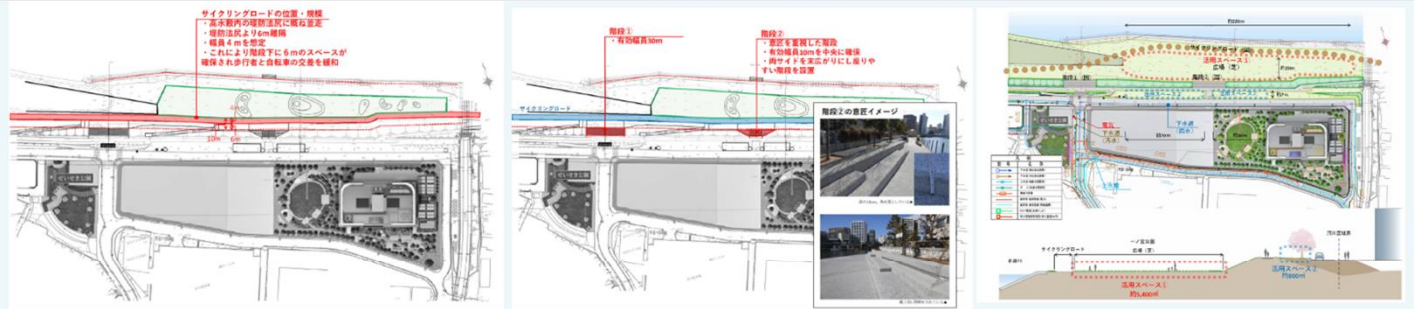


図1 概略検討イメージ図

##### ②多目的広場及び店舗設置環境の整備・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

一ノ宮公園において、カフェ等の民間施設の出店可能性を検討するため、想定される事業スキームを検討するとともに、民間事業者を対象とした市場調査を実施した。また、市場調査の結果をもとに、事業化に向けた課題を整理し、スケジュールを検討した。



図2 水辺空間イメージ



図3 出店イメージ



図4 多目的広場イメージ

#### 4. 基盤整備の見込み・今後の課題

- ・多目的広場及び店舗設置環境の整備に向けて、今後は河川管理者（国）や民間事業者と出店に向けた事業スキーム、整備・維持管理方法について調整を行う。
- ・令和3年度に一ノ宮公園拡張等を含む「かわまちづくり計画」全体の整備手法を決定し、令和4～6年度にPFI事業者の公募・選定を行い、事業整備実施予定である。

# 2. 調査費の活用事例(活用成果)

## 河川関係(蟹江町におけるかわまちづくり事業)

蟹江町では、祭礼行事として江戸時代から行われている須成祭(すなりまつり)が平成28年12月にユネスコ無形文化遺産登録に登録された。これにより観光客の増加が見込まれる中、観光客が安全で快適に祭り開催地域を周遊できるように、車楽船(だんじりぶね)が巡航する蟹江川河岸及びミュージアム(観光交流施設)周辺の堤防、道路を再整備する必要があった。

すなりまつり かにえ だんじりぶね  
須成祭：蟹江川を巡航する車楽船



【民間】

【公共】

○官民協議を通じた地域活性化の構想  
・須成祭ミュージアム(仮称)の整備に関する地域再生計画の認定(H29.2)

本調査費で支援(H29)

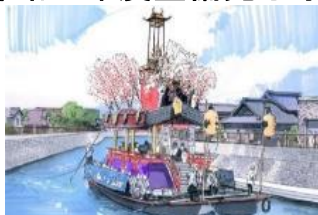
○基盤整備の事業化検討  
・河川及び道路の整備計画検討として地域住民ニーズ等の調査、空間デザインの検討、護岸の概略設計  
・河川の管理等へのPPP導入可能性検討

○民間の事業活動(H30～)  
・地域製品の販売  
・観光ツアーの実施

連携

【公共】  
○基盤整備の実施(H31～)  
・道路、河川、地域振興施設の整備

○令和5年度整備完了予定



【整備終了後イメージ図】



【観光ツアーの実施】



# 2. 調査費の活用事例(調査成果)

## 港湾関係(須磨ヨットハーバー再整備)

【要領様式5】調査成果報告書の概要

【令和3年度】

【事業費：20,000千円 国費：10,000千円】 【実施主体名：神戸市】

### 須磨ヨットハーバー再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

#### 1. 調査の目的・必要性

市の観光拠点である須磨地区の須磨ヨットハーバーにおいて、周辺の水族園等との一体的な賑わい創出と近年の大型艇需要に対応するため、民間事業者による水族園等のリニューアルや水上交通の導入等と合わせて、港湾施設の概略設計、需要予測及びPPP/PFI導入可能性検討等を行う。

#### 2. 調査内容

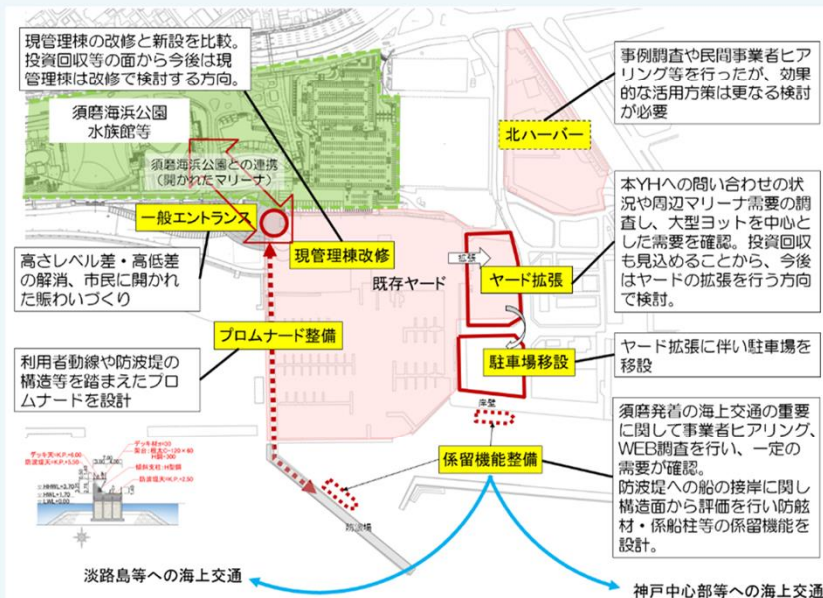
- ①港湾整備にかかる概略設計
  - ・施設の配置や規格、事業費の検討等
- ②港湾整備にかかる需要予測・整備効果検討
  - ・費用対効果の算出等
- ③港湾施設(係留施設、防波堤等)の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討
  - ・民間事業者を求める業務の範囲および要求水準の検討
  - ・リスク分担の検討
  - ・基本計画を踏まえた事業費の算定
  - ・VFMの算出
  - ・マーケットサウンディング(民間投資意向調査)
  - ・事業スケジュールの検討

#### 整備イメージ



#### 3. 調査成果

##### ①港湾整備にかかる概略設計



##### ②港湾整備にかかる需要予測・整備効果検討

【ヤード拡張】 須磨ヨットハーバーへの問い合わせ状況、周辺マリナーの状況を踏まえ大型艇を中心に需要があることを確認  
 【防波堤プロムナード】 インターネット調査による需要把握や費用対効果の算出を行い効果があるとの結果  
 【北ハーバー】 民間等との対話を行ったが、有効な活用方策については更なる検討が必要。

##### ③港湾施設(係留施設、防波堤等)の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

【マーケットサウンディングの結果】 既存マリナー整備は競争が働きにくい(事業者の少なさ、他マリナーへの参入障壁)  
 【業務の範囲に関する特性】 民間マリナー事業者のノウハウを活かしにくい事業(運営維持しながらの再整備で、既存ストックの活用が前提となるため、事業内容が施設の新設工事ではなく改修工事が主となる)

##### 【事業パターンの比較(リスク分担等、踏まえて)】

	①市整備 A指定管理 (5年以内)	②長期指定管理 (長期化)	③PFI手法 (コンセッション含む)
整備	コスト削減	○ 従来方式の方が競争環境が働き、コスト削減となる可能性	△ コロナ禍もあり、参入意向を示す事業者が限定的で、競争環境が働きづらい。
	民間ノウハウ活用	× 設計に対して自社ノウハウを提供するか不透明	△ マリナー事業者が整備・調達ノウハウを活かすににくい事業内容であるため、指定管理(長期化)と大きな差はない
	民間投資	△ 償却期間が短く、民間投資は難しい	△ 民間投資が期待。ただし事業費が大きく、民間の資金調達力に課題
運営	コスト削減	○ 長年、指定管理者制度を導入し、コストの削減は一定達成	△ SPC、調達金利、法人税等の追加コストが発生
	民間ノウハウ活用	△ 運営期間が短く、民間ノウハウの活用の余地が乏しい。	○ 長期的な目線での運営がしやすく、民間ノウハウの余地がある。
総合評価	△	○	△※コスト削減が特に課題

#### 4. 基盤整備の見込み・今後の課題

- 【プロムナード】 令和4年度に実施設計を開始し、官民の整備分担エリアを整理する。
- 【係留機能】 令和4年度に淡路島等への海上交通導入に向けた実証事業を行い、民間による運営の可能性を検討する。
- 【ヨットハーバー】 一部に民間投資を呼び込むため、指定管理を長期化する事業スキームを整理し、早期のリニューアルオープンを目指す。

## 2. 調査費の活用事例(活用成果)

### 港湾関係(三河港蒲郡地区におけるクルーズ船誘致)

三河港蒲郡地区では、輸出用完成自動車の取扱い等物流拠点としての役割を担ってきたが、取扱量の増加により既存施設では対応できない状況にあった。また、当該地区の後背地は豊富な観光資源を有しており、地域の活性化を目的として、貨物船だけでなくクルーズ船などの多目的利用等に対応するために必要な岸壁等の整備が求められていた。

